

# The Emerging Market Weekly

国際為替部  
マーケット・エコノミスト  
佐々木 貴彦  
03-3242-7065  
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周  
03-3242-7065  
amane.saito@mizuho-bk.co.jp

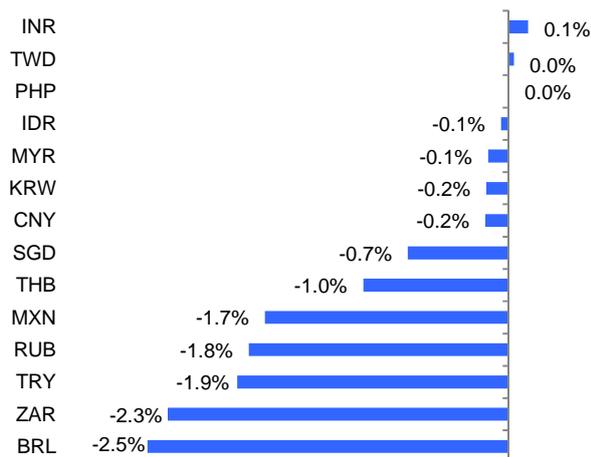
## 今週のエマージングマーケット

### 今週の新興国通貨は大半が下落

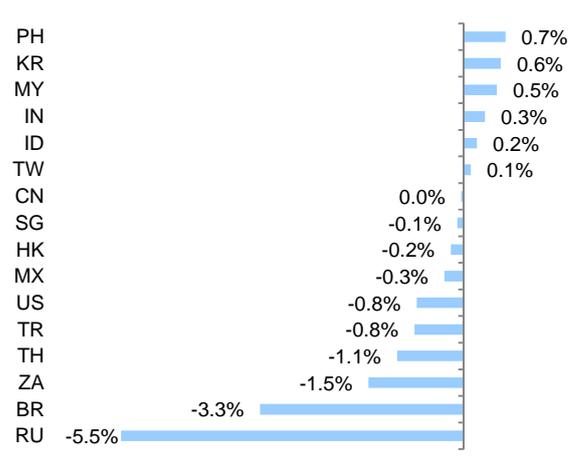
今週の新興国通貨は大半が下落した。週初、米経済指標（1月製造業受注、1月耐久財受注）が市場予想を上回る結果となりドル買いが優勢となるも、新興国通貨は小幅な値動きとなった。7日、特段材料がない中、ドル買いの動きが一服したことを受け、新興国通貨は堅調に推移。8日、米2月ADP雇用統計が市場予想を大幅に上回ったことを背景にドルが強含んだことに加え、米原油在庫が急増したことを受けて原油価格が下落し、新興国通貨は軟調となった。9日、WTI原油先物が3か月振りの安値をつけるなど、原油価格が急落し資源国通貨は値を下げた。

個別通貨で見ると、ブラジルで外為取引税が引き上げられるとの報道（のちにブラジル中銀（BCB）と政府は否定）が嫌気されBRL（▲2.5%）は下落した。また、ZAR（▲2.3%）は冴えない南アフリカ10~12月期GDPの結果と、米3月利上げ観測の高まりを背景に値を下げた。TRY（▲1.9%）はトルコ中銀（CBRT）のチェティンカヤ総裁が、必要があれば金融政策の引き締めを行うと発言したが、市場はより積極的な発言を期待していたため、失望感から売られた。原油価格の下落を受け、RUB（▲1.8%）とMXN（▲1.7%）は連れ安となった。（大島由喜）

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数, CN: 中国上海総合指数, HK: 香港ハンセン指数, IN: インド SENSEX30 種指数, ID: インドネシアジャカルタ総合指数, KR: 韓国総合株価指数, MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス, PH: フィリピン総合指数, SG: シンガポール ST 指数, TW: 台湾加権指数, TH: タイ SET 指数, RU: ロシア RTS 指数, ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数, TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数, BR: ブラジルボエバ指数, MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

### エマージングマーケット短期見通し

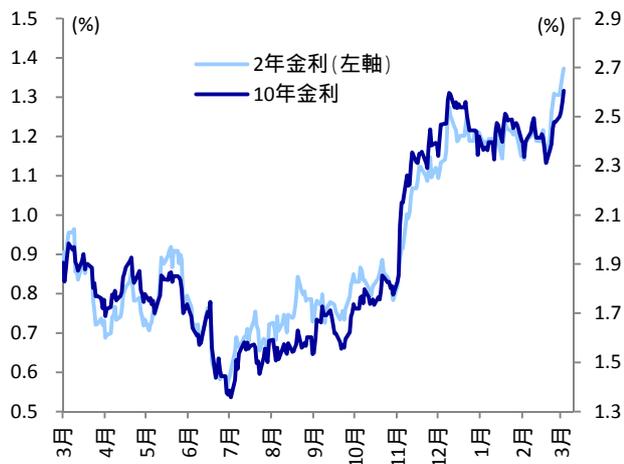
イベント通過後は、新興国通貨が上昇する展開を予想

来週は14日(火)～15日(水)にFOMC、15日(水)にオランダ下院選挙と注目のイベントが週中に予定されている。市場参加者もそれまではポジションを一方に傾けづらいため、週初の新興国通貨は動意が乏しい展開となろう。但し、イベント通過後は新興国通貨の上昇を予想する。まずFOMCであるが、市場は既に今回の会合における利上げをほぼ確実視しており、関心は今後の利上げペースに移っている。2月下旬以降、多くのFRB高官は目先の利上げは適切とするも、引き続き緩やかな利上げペースを望む意見が目立った。こうした発言に基づけば、メンバーによる政策金利見通し(ドット・チャート)では前回同様に2017年は合計で3回という利上げペースは変わらない公算が大きい。また、オランダ下院選挙ではEU離脱を公約とする自由党(PVV)の台頭が懸念されているものの、事前調査によれば獲得議席は過半数に届かず、連立を余儀なくされると見られている。PVVと連立を組む意志を示している政党数は少なく、仮にPVVが第1党になったとしても、連立政権を組閣できるとは見込みがたい。そのため、来週はFOMCで利上げペースの維持を確認し、オランダ選挙後はEU分裂に対する懸念が後退することで、週末にかけて新興国通貨は買い優勢の展開を予想する。

米予算教書は材料視されない可能性が高い

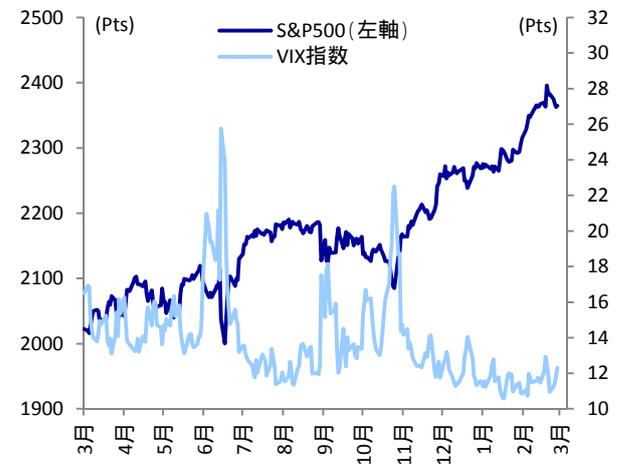
なお、来週に発表されると言われている米予算教書だが、新興国通貨を大きく動かす内容にはならないと見込む。予算の前提となるオバマケアの代替案について、共和党下院が原案を示すも、共和党上院からは反対の声が挙がっており、近い将来に合意が形成される様相はない。税制改革に関しても相変わらず共和党内で議論が紛糾しており、またインフラ投資については未だ財源が不明瞭なままである。かかる状況下、予算教書で詳細案が出てくる可能性は低く、市場に材料視されないだろう。(佐々木貴彦)

図表1: 米国債利回りの推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表2: 米株とVIX指数の推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

米金利上昇にも拘らず新興国通貨が小幅安に止まる理由

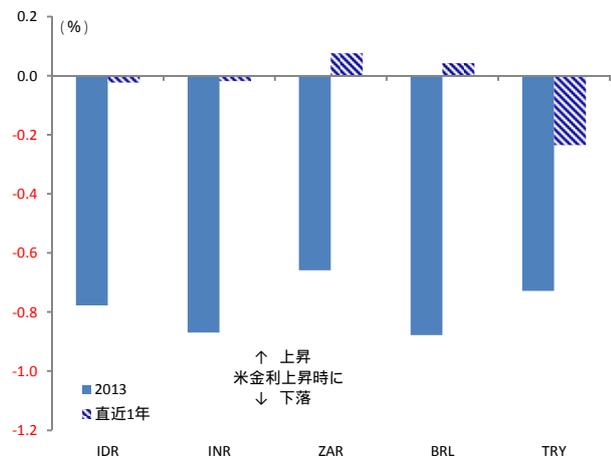
米金利上昇に目立った反応を示さなくなった新興国通貨

2月下旬よりFRB高官によるタカ派な発言が相次いだことで、3月FOMCに対する市場の利上げ織り込みが急速に進み、米金利は短期を中心に急騰した。こうした状況にも拘らず、多くの新興国通貨はレンジ内で推移している。2013年5月にバーナンキFRB議長(当時)が金融政策の正常化に言及してから新興国通貨を大きく左右してきた米金利の動向だが、その影響力の後退が顕著となったと言えよう。実際、2013年にフラジャイル・ファイブと呼ばれ、米金利上昇に伴う通貨の下落が顕著だったIDR・INR・ZAR・BRL・TRYについて、米2年債金利に対する感応度を計算すると(図表3)、IDR・INR・TRYは大幅に減少した。ZARやBRLに至っては米2年債金利上昇に追隨して買われる傾向が見られている。両通貨は商品価格との相関が米金利よりも強くなっており、足許は商品価格の上昇と金利上昇が同時に見られたことが、傾向の変化に繋がった模様だ。

2013年以降、ポジション調整の進展が主因

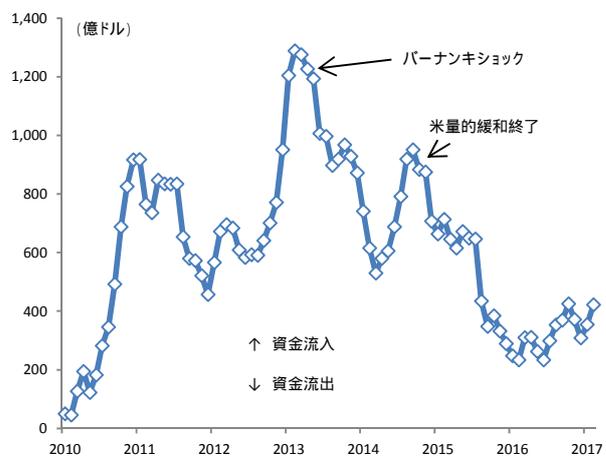
新興国通貨の米金利に対する反応が以前よりも目立たなくなっている要因として、ポジション調整の進展が挙げられる。米国が量的緩和に着手して以降、先進国対比で高成長・高金利が享受できる新興国に投資資金は流入し続けた。しかし、FRBが金融政策の正常化に着手すると、過去に流入した投資資金の大部分が急速に流出した(図表4)。その結果、更なる流出の余地は小さくなり、米金利上昇に伴う新興国通貨の下落幅が縮小したと考える。また、直近では原油価格の持ち直しに伴うインフレ率の加速を受けて、多くの新興国で緩和的だった金融政策スタンスを引き締め方向に変えており、米国との金利差が維持される公算が大きくなっている。かかる状況に鑑みれば、今後FRBが利上げを継続する姿勢を維持したとしても、新興国通貨の下落スピードは緩やかになると見込む。(佐々木貴彦)

図表3: 米2年債の利回り変化(1bp)に対する感応度



(注)週次データにて計算、直近1年は2016年3月4日~2017年3月3日までのデータを用いて計算  
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表4: ファンドの新興国に対する累積資金流入額



(注)2010年初以来の累積流入額、2017年2月は暫定値  
(資料)EPFR Global、みずほ銀行

**インドネシア：金融政策決定会合プレビュー**

インフレ圧力の高まりを受けて  
政策金利を据え置きか

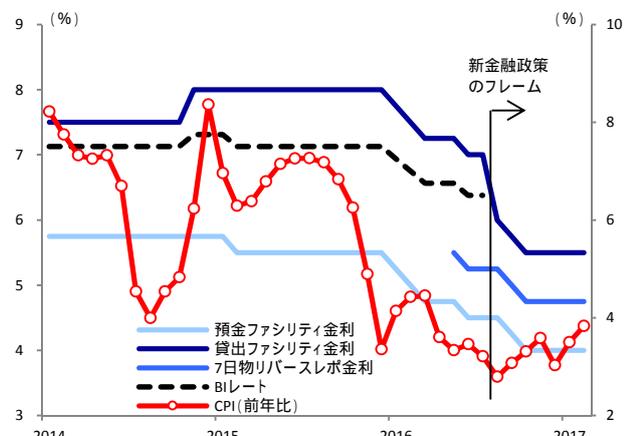
16日（木）に開催されるインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では7日物リバースレポレート（政策金利）が4.75%に据え置かれると予想する。前回会合（2月16日）の声明文では、インドネシア経済は堅調な推移が見込まれるとし、インフレ率も概ね抑制されているとの認識が示された。会合後の会見でアグス BI 総裁は「（一段の利下げ余地は）それほど大きくない」と発言しており、これまでワルジヨ BI 副総裁が繰り返し示唆してきた緩和余地を否定している。なお、インドネシア経済は1月輸出が前年比+27.7%となるなど回復の動きが見られるほか、商品価格の上昇を背景に2月消費者物価指数（CPI）は前年比+3.8%（1月：同+3.4%）と小幅に加速している。BIは金融政策スタンスを「慎重ながら緩和的」に維持するとしているが、景気回復とインフレ圧力の高まりを背景に先行きの金融政策は引き締め方向に転換する可能性は高く、当面は利下げには踏み切らずに現状の金融政策を維持すると考える。（齋藤周）

**トルコ：金融政策決定会合プレビュー**

インフレ加速を背景に利上げ  
を実施か

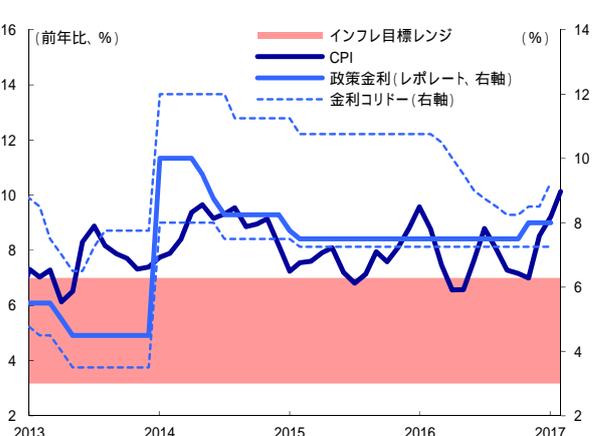
16日（木）に開催されるトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、市場金利が連動する翌日物貸出金利は75bp引き上げられ10.00%になると予想する。一方、政策金利のレポレートは8.00%、市場下限金利である翌日物借入金利も7.25%に据え置かれるだろう。前回会合（1月24日）では、翌日物貸出金利は75bp引き上げられ、レポレートと翌日物借入金利は据え置かれた。声明文では、為替相場や食品価格の変動により、短期的にインフレ率が大幅に加速する可能性があるとし、インフレ加速を抑制するため、金融引き締めを決定したと述べた。また、必要があれば一段の引き締めを実施するとしたほか、緊急貸出金利を100bp引き上げ11.00%としている。

**図表5：インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)**



(注)7日物リバースレポ金利は2016年5月から発表が開始され、8月から正式に政策金利として採用された  
(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

**図表6：トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)**



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

なお、CBRT は輸入物価を通じてインフレ圧力を高める TRY 安を阻止するため、為替スワップを用いた外貨預金の貸出などの非伝統的な手段を採用してきた。しかし、2月に TRY は対ドルで上昇したが、3月に入り再び軟化してきている。また、トルコ 2月 CPI は前年比+10.13%と 1月（同+9.22%）から加速し、2012年4月以来の高水準となった。かかる状況下、CBRT はインフレ加速の抑制と TRY の下支えを図るため、再び翌日物貸出金利の引き上げに踏み切ると予想する。（大島由喜）

**中国：全国人民代表大会(全人代)レビュー**

経済の安定化を最優先する姿勢を打ち出す

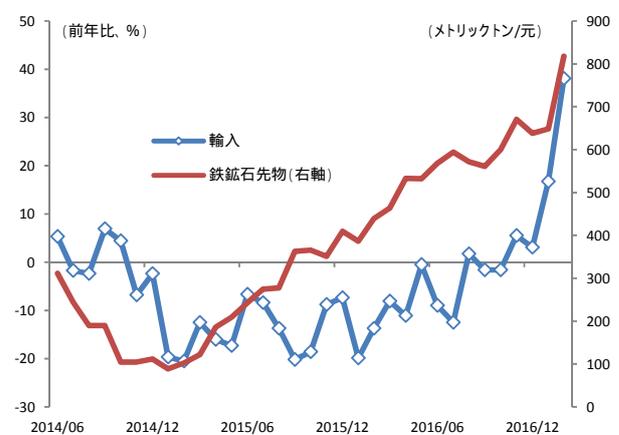
5日より全国人民代表大会（全人代）が開催され、李首相は冒頭の演説において2017年の経済成長率目標を「+6.5%前後」とし、2016年（+6.5%～7.0%）から僅かに引き下げると発表した。財政収支に関してはGDP比▲3.0%と2016年から横ばいとし、昨年と同様に減税やインフラ投資などを積極的に行う姿勢を見せている。一方で、李首相は金融システムリスクについて「厳重に警戒する必要がある」と述べた。今までの積極的な流動性供給に伴い不動産市場が過熱していることなどを念頭に置いた発言と考えられる。実際、現預金総額（M2）に関しては目標値が前年比+12%と昨年（同+13%）から引き下げ、金融政策のスタンスをやや引き締め方向とした。最高指導部が替わる秋の共産党大会を控えて、積極的な財政政策で景気を下支えすると同時に、引き締めの金融政策で金融システムリスクを押さえることにより、経済の安定化を図る狙いがあった模様だ。もっとも、昨年の中央経済工作会議（2016年12月14～16日）で示された内容に沿った目標だったため、週初6日の人民元相場に対する影響は限定的となっている。なお、中国政府は第13次5か年計画（2016年～2020年）で2020年のGDPを2010年対比で倍増させるとしており、目標達成に向け

図表7：中国 2017年の政策目標

	2016年目標値	2017年目標値
実質GDP (前年比)	+6.5%～+7.0%	+6.5%前後
財政収支 (対GDP比)	3.0%	3.0%
消費者物価指数 (前年比)	+3.0%前後	+3.0%前後
マネーサプライM2 (前年比)	+13.0%	+12.0%
新規雇用 (前年比)	+1000万人	+1100万人

(資料)各種報道、みずほ銀行

図表8：中国 輸入と鉄鉱石先物



(注)データは2014年6月から、大連商品取引所で取引される鉄鉱石先物を使用

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

ては年平均+6.5%以上の成長が必要とされている。かかる状況下、目標が引き下がったとはいえ、中国政府が GDP 成長率を昨年（前年比+6.7%）から下振れさせる余地は小さい。そのため、不動産投資の減速などにより景気への下押し圧力が高まった際には、金融政策スタンスが緩和方向へ容易に変更される可能性がある点には注意したい。

（佐々木貴彦）

### 中国：旧正月の影響を受けて貿易収支は3年振りの赤字に

商品価格の上昇などを背景に輸入増加は続く見込み

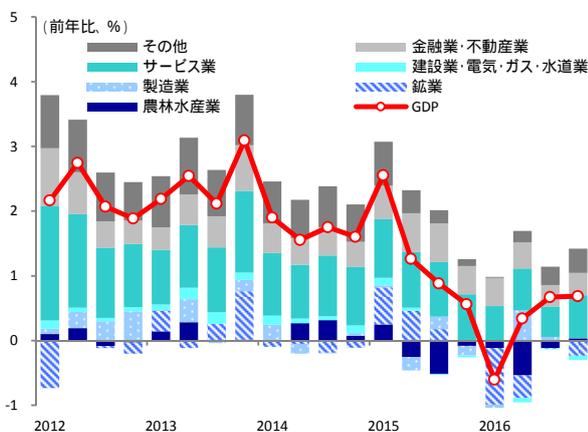
8日に発表された2月貿易収支は▲91.5億ドルと2014年2月以来の赤字となった。輸出が前年比▲1.3%と減少する中、輸入が同+38.1%と2012年2月以来の高い伸びになったことが貿易収支の大幅な悪化に繋がっている。中国では1~2月に旧正月の長期休暇があるため、貿易統計を含む各種経済統計が大きく振れやすい。実際、1~2月の貿易収支を平均すれば+422億ドルと昨年の月次平均（+456億ドル）から大きく乖離しておらず、貿易赤字は旧正月の影響による一時的なものと言えよう。もともと、政府による大規模インフラ投資や商品価格の上昇を受けて、輸入の加速は続く公算が大きく、中国の貿易黒字額は徐々に減少していくと予想する。（佐々木貴彦）

### 南ア：10~12月期 GDP は7~9月期から横ばい

製造業と鉱業の低迷を背景に南アフリカ経済は伸び悩む

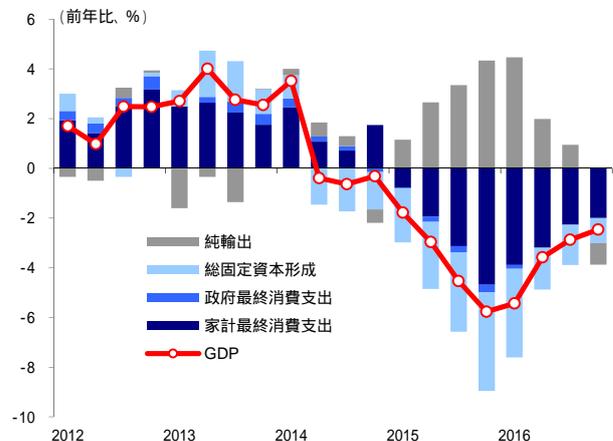
7日に発表された南アフリカ10~12月期 GDP は前年比+0.7%と7~9月期（同+0.7%）から伸び率が横ばいだった。業種別に見ると、農林水産業（7~9月期：同▲5.2%→10~12月期：同+2.4%）はプラスに転じた。また、輸送・通信業が同+1.7%と7~9月期（同+0.4%）から持ち直した。一方、製造業（7~9月期：同+0.5%→10~12月期：同▲0.7%）が減少に転じ、鉱業（7~9月期：同▲0.1%→10~12月期：同▲3.1%）はマイナス幅が拡大したことを背景に10~12月期 GDP は伸び悩んだ。全体を見ても、経済全体をけん引するような強さがある業種はなかった。なお、低成長を背景に財政が

図表9：南アフリカ 実質 GDP 成長率



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表10：ブラジル 実質 GDP 成長率



(資料)Datastream、みずほ銀行

圧迫されており、南アフリカの格付けは投資不適格級に引き下げられると懸念されている。また、ズマ大統領による内閣改造の観測も燻っており、格下げ懸念に加えて先行き不透明感が強い政治情勢が南アフリカ経済の重石となるだろう。(大島由喜)

#### ブラジル: 10~12 月期 GDP はマイナス幅が縮小

年間の成長率は 2 年連続で  
マイナスに

7日に発表されたブラジル10~12月期GDPは前年比▲2.5%（7~9月期：同▲2.9%）とマイナス幅は縮小したが、11四半期連続で減少した。これにより2016年の成長率は▲3.6%と2015年（▲3.8%）に引き続き減少し、1930~1931年以来の2年連続のマイナス成長となっている。10~12月期の内訳を見ると、家計最終消費支出（7~9月期：同▲3.4%→10~12月期：同▲2.9%）と総固定資本形成（7~9月期：同▲8.4%→10~12月期：同▲5.4%）の減速が続いた。また、輸出（7~9月期：同+0.2%→10~12月期：同▲7.6%）が8四半期ぶりに減少に転じ、純輸出の前年比寄与度（▲0.9%ポイント）もマイナスに転じたことが成長率を下押ししている。現地では、中国向けの農産品輸出の低迷に伴い国内の投資と消費が落ち込んだとの見方がでてい。もっとも、足許では中国経済が回復し、また農産品を含む商品価格が上昇しているため、2017年のブラジル経済はプラス成長に転じる見込みだ。  
(齋藤周)

## エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
3月3日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	\$5277.8m	\$7869.2m	--
3日 (金)	韓国	消費者物価指数(前年比)	1.8%	1.9%	2.0%	--
3日 (金)	中国	Caixin中国PMI-ビル業	--	52.6	53.1	--
3日 (金)	マレーシア	貿易収支MYR	8.43b	4.71b	8.72b	8.72b
7日 (火)	台湾	消費者物価指数(前年比)	0.7%	0.0%	2.3%	--
7日 (火)	フィリピン	消費者物価指数(前年比)	3.2%	3.3%	2.7%	--
7日 (火)	台湾	貿易収支	\$3.8b	\$3.36b	\$3.5b	\$3.49b
8日 (水)	インドネシア	消費者信頼感指数	--	117.1	115.3	--
8日 (水)	中国	貿易収支	\$27.00b	-\$9.15b	\$51.35b	\$51.34b
9日 (木)	中国	消費者物価指数(前年比)	1.7%	0.8%	2.5%	--
9日 (木)	中国	新規貸出(人民元)	950.0b	1170.0b	2030.0b	--
10~18日	中国	海外直接投資	-4.2%	--	-9.2%	--
10日 (金)	タイ	消費者信頼感指数	--	--	74.5	--
10日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$2985m	--	-\$2564m	--
10日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	0.5%	--	-0.4%	--
13日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.7%	--
13~31日	インド	国際収支:経常収支	-\$8800	--	-\$3.40b	--
14日 (火)	中国	固定資産投資	8.2%	--	8.1%	--
14日 (火)	インド	卸売物価(前年比)	6.1%	--	5.3%	--
14日 (火)	インド	消費者物価指数(前年比)	3.6%	--	3.2%	--
15日 (水)	フィリピン	海外送金(前年比)	--	--	3.6%	--
15~17日	インド	貿易収支	-\$9150.0m	--	-\$9840.9m	--
16日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行 預金ファシリティ・レート	--	--	4.75%	--
17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	8.6%	--
17日 (金)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$1396m	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
3月3日 (金)	トルコ	消費者物価指数(前年比)	9.8%	10.1%	9.2%	--
7日 (火)	南アフリカ	GDP(前年比)	0.6%	0.7%	0.7%	--
7日 (火)	ロシア	消費者物価指数(前年比)	4.6%	4.6%	5.0%	--
8日 (水)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	1.8%	2.6%	1.3%	1.6%
13日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	-4.27b	--
14日 (火)	南アフリカ	鉱物生産量(前年比)	--	--	-1.9%	--
14日 (火)	南アフリカ	製造業生産(季調済/前月比)	--	--	0.3%	--
14日 (火)	ロシア	貿易収支	11.5b	--	11.8b	--
16日 (木)	トルコ	指標レート	--	--	8.00%	--
16日 (木)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	9.25%	--
16日 (木)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
16日 (木)	トルコ	後期流動性貸出金利	--	--	11.00%	--
16~17日	ロシア	鉱工業生産(前年比)	1.4%	--	2.3%	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
3月3日 (金)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$3300m	\$4560m	\$2725m	--
3日 (金)	メキシコ	総設備投資	0.8%	0.9%	2.8%	--
6日 (月)	メキシコ	消費者信頼感指数	68.6	75.7	68.5	--
7日 (火)	ブラジル	GDP(前年比)	-2.4%	-2.5%	-2.9%	--
9日 (木)	メキシコ	消費者物価指数(前年比)	4.8%	4.9%	4.7%	--
10日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	4.9%	--	5.4%	--
14日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.6%	--

(注)2017年3月10日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
(資料)ブルームバーグ

## エマージング通貨相場見通し

		2017年 1～2月(実績)	SPOT	2017年 3月	6月	9月	12月	2018年 3月
<b>対ドル</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
中国人民元	(CNY)	6.8315 ~ 6.9640	6.9110	6.90	6.95	7.00	7.10	7.10
香港ドル	(HKD)	7.7531 ~ 7.7632	7.7648	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.648 ~ 68.388	66.715	66.8	68.5	66.3	65.5	65.0
インドネシアルピア	(IDR)	13236 ~ 13496	13390	13400	13600	13300	13000	12800
韓国ウォン	(KRW)	1127.76 ~ 1211.78	1158.04	1140	1160	1140	1120	1100
マレーシアリング	(MYR)	4.4198 ~ 4.5002	4.4605	4.45	4.45	4.35	4.22	4.10
フィリピンペソ	(PHP)	49.360 ~ 50.384	50.380	50.3	50.5	49.8	49.0	48.3
シンガポールドル	(SGD)	1.3975 ~ 1.4547	1.4208	1.42	1.45	1.42	1.40	1.39
台湾ドル	(TWD)	30.655 ~ 32.447	31.039	30.80	31.20	30.80	30.40	30.00
タイバーツ	(THB)	34.77 ~ 36.01	35.38	35.1	35.3	35.0	34.9	34.8
ベトナムドン	(VND)	22528 ~ 22846	22803	22800	22900	22750	22650	22650
<b>中東欧・アフリカ</b>								
ロシアルーブル	(RUB)	56.5578 ~ 61.7190	59.2777	59.00	60.00	60.00	58.00	58.00
南アフリカランド	(ZAR)	12.7920 ~ 13.9810	13.3265	13.20	13.80	14.40	14.00	13.50
トルコリラ	(TRY)	3.5143 ~ 3.9415	3.7777	3.60	3.60	3.70	3.80	3.90
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	3.0413 ~ 3.2912	3.1930	3.15	3.20	3.26	3.30	3.28
メキシコペソ	(MXN)	19.6090 ~ 22.0385	19.8358	22.00	21.00	21.00	20.50	20.20
<b>対円</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
中国人民元	(CNY)	16.253 ~ 17.031	16.625	15.94	16.12	15.57	14.79	14.65
香港ドル	(HKD)	14.386 ~ 15.291	14.816	14.18	14.43	14.05	13.53	13.40
インドルピー	(INR)	1.651 ~ 1.735	1.724	1.65	1.64	1.64	1.60	1.60
インドネシアルピア	(100IDR)	0.838 ~ 0.880	0.859	0.821	0.824	0.820	0.808	0.813
韓国ウォン	(100KRW)	9.599 ~ 10.079	9.916	9.65	9.66	9.56	9.38	9.45
マレーシアリング	(MYR)	25.182 ~ 26.274	25.751	24.72	25.17	25.06	24.88	25.37
フィリピンペソ	(PHP)	2.227 ~ 2.377	2.280	2.19	2.22	2.19	2.14	2.15
シンガポールドル	(SGD)	78.88 ~ 81.66	80.97	77.46	77.24	76.76	75.00	74.82
台湾ドル	(TWD)	3.570 ~ 3.741	3.706	3.57	3.59	3.54	3.45	3.47
タイバーツ	(THB)	3.187 ~ 3.300	3.251	3.13	3.17	3.11	3.01	2.99
ベトナムドン	(100VND)	0.4903 ~ 0.5213	0.5050	0.48	0.49	0.48	0.46	0.46
<b>中東欧・アフリカ</b>								
ロシアルーブル	(RUB)	1.860 ~ 2.024	1.941	1.86	1.87	1.82	1.81	1.79
南アフリカランド	(ZAR)	8.296 ~ 8.852	8.633	8.33	8.12	7.57	7.50	7.70
トルコリラ	(TRY)	29.076 ~ 33.476	30.434	30.56	31.11	29.46	27.63	26.67
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	34.866 ~ 37.450	36.028	34.92	35.00	33.44	31.82	31.71
メキシコペソ	(MXN)	5.164 ~ 5.750	5.800	5.00	5.33	5.19	5.12	5.15

(注)1. 実績の欄は2017年2月28日まで。SPOTは3月10日の7時30分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。4. 見通しの値は「Emerging Market Monthly(3月1日発行)」及び「中期為替相場見通し(2月28日発行)」に基づく  
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。